

体育科 授業改善推進プラン

1 体力測定結果（令和元年度実施）

- 【男子】・全学年が目標値を下回っている種目：握力、反復横跳び。 ・4 学年以上が目標値を下回っている種目：長座座体前屈、ソフトボール投げ。
- 【女子】・全学年が目標値を下回っている種目：握力。・4 学年以上が目標値を下回っている種目：反復横跳び、ソフトボール投げ。
- 【全校として】 ・握力、反復横跳び、ソフトボール投げの3 種目が課題と言える。

2 児童の実態（課題）

第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年
・意欲的に活動に取り組む児童が多くいる。 ・経験の違いが顕著に出る。 ・友達の動きを真似したり、動きのコツを見付けたりすることが難しく、自己流の動きになってしまうことが多い。	・多様な動きや基本的な動きは、楽しく積極的に取り組めるが、順番やきまりを守れなかったり、勝敗を素直に受け入れられなかったりすることがある。 ・経験の違いが顕著に出る。 ・集団での学び合いから、自分に置き換えて体を動かしたり挑戦する喜びを感じたりすることが苦手である。	・前向きに授業に取り組む児童が多いが、自ら考えて取り組むまでには至らないこともある。 ・学習カードを用いて振り返りを行うことで、自分の思考を表現しようとしているが、書けない児童も多くいる。	・意欲的に運動に取り組む児童が多くいる。 ・整列や移動、準備に時間がかかってしまうこともある。 ・グループでの学習にも意欲的に取り組んでいるが、お互いの動きのよさについては評価できていない児童が多くいる。	・各種の運動に積極的に取り組む児童が多い。 ・勝敗を受け入れたり、友達のミスにも優しく声を掛けたりするなど、仲間と楽しみながら運動に取り組んでいる。 ・運動の行い方の工夫やルール工夫をできるが、見つけたコツや作戦でうまくいったことなど、自分や仲間が考えた事を他者に伝えることのできる児童が少ない。	・各種の運動に積極的に取り組み、仲間の考えや取組を認め合うことができる児童が多い。 ・各種の運動技能を高めようと取り組む姿勢は見られるが、ポイントやコツを取り入れて活用できる児童が少ない。

3 課題や授業の改善策

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年
知識・理解	・場の設定を工夫したり、運動する場を増やしたりすることで、それぞれの運動の基礎的な動きを身に付けられるようにする。	・場の設定を工夫し、走ったり跳んだり体を巧みに操作できる心地よさを味わうことができるようにする。 ・集団での活動や競い合う楽しさを共有し、仲良く楽しく運動する。	・写真や動画を活用することで、自分の動きを客観視することで、身に付けていた知識の根拠を明確にし、理解に繋げる。 ・集合整列や移動など切り替えを早く行わせる指導を続けることで、運動量の時間を確保する。	・様々な運動を通して、児童が動きのポイントを身に付けることができるような授業を展開する。 ・「できる」経験や、達成感を味わわせる工夫をすることで、運動の楽しさを実感できるようにする。	・各種の運動の楽しさと行い方を理解できるように、運動の行い方や動きのコツをまとめた学習カードを活用したり、タブレットで動きのコツが分かる動画コンテンツを活用したり、自身の動きを振り返り課題を見付けることができるように録画機能を活用したりする。	・運動の楽しさを知り、運動技能の特性に応じた基本的な技能が行えるように、多様な運動やスポーツの動きのポイントやコツを動画など視覚的な情報で提示したり、個人に合わせた課題解決の場を設定したりする。
思考・判断・表現	・動きのポイントを捉えて取り組む児童を称賛し、児童とともに動きのポイントを見付けたり、全体で共有したりする。	・イメージを図や絵にして基礎となる感覚を味わう。	・具体的に書く内容を提示し、最初は選択方式で記入することで、自分の思考や判断をしたことを表現する力を身に着けさせる。 ・児童同士がお互いの動き良い点や動きのコツを見つけ、思考判断が育つ授業展開に工夫する。	・学習カードを使用する中で、自分自身が出来たことや今後の課題について記述できるようにする。	・1 時間の学習で、児童が考えること、見つけることが明確になるようにめあてを立てて意識して運動に取り組めるようにする。 ・児童が考えたことを共有できるように、チームやグループの友達に伝える時間、全体で共有する時間を確保する。	・課題解決に必要な方法を適宜、選択・見直しができるように、毎時間、課題の現状を振り返る時間を確保する。 ・多様な意見を認め合うことができるように、個から集団へ意見を伝えられる場を設定する。
学びに向かう力、人間性等	・グループで活動する時間を作り、友達の良いところや改善点を見付けてコミュニケーションを取ることで、交流する場を設定する。	・集団で取り組める遊びを工夫し、順番やきまりを守って安全に運動できるようにする。	・体育係やチームリーダーを中心に組みこませることで、自ら働きかける児童を育成していく。 ・毎時間のめあてを明確に提示し、振り返る時にはめあてに沿って行わせる。	・良い動きや安全に気を付けている児童を評価し紹介することで、自分から進んで運動に取り組むことができるようにする。	・運動に積極的に取り組み、児童や約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしている児童を称賛することで、意欲的に学びに向かう児童を育成していく。	・運動やスポーツの意義や価値の深まりが浅いので、授業中の行動や発言に対して肯定的な声掛けをしたり、価値付けたりする。 ・各種運動の楽しさに触れあうことができるように、主運動に関連した運動を導入に取り入れ、積極的に運動に取り組む姿勢を育成する。

※太枠内は、特に重視する内容